

- ② 主な内容
 - FANUC 260—Aによるプロクラミンク
 - NC操作及び切削実習

14 教育相談講座

(1) 小学校教育相談講座

- ① 期日・人員等
 - ア 6月16日～6月19日
 - イ 小学校教員 31名

- ② 主な内容
 - 教育相談の問題点
 - 事例研究法とロール・プレーイング
 - Y—G性格検査法
 - ソシオメトリック・テスト
 - 児童期の精神障害

(2) 中学校教育相談講座

- ① 期日・人員等
 - ア 11月18日～11月21日
 - イ 中学校教員 30名

- ② 主な内容
 - 教育相談の問題点
 - Y—G性格検査法
 - 適応性診断テスト
 - 事例研究法
 - 思春期の精神医学

(3) 高等学校教育相談講座

- ① 期日・人員等
 - ア 9月9日～9月12日
 - イ 高等学校担当教員 30名

- ② 主な内容
 - 教育相談の問題点
 - 心理診断法
 - 自律訓練法
 - 生徒指導上の諸問題
 - 事例研究の進め方

第4節 教育相談に関する事業

1 児童・生徒、父母への相談・助言

- (1) 児童の問題行動の治療矯正には、原則として遊戯療法を用いているが、ケースによっては、行動療法・絵画療法などをあわせて行っている。
- (2) 生徒に対しては、カウンセリングを主として用いているが、自律訓練法・行動療法などもケースによって行っている。
- (3) 父母に対しては、原則として児童・生徒の治療と並行して面接指導を行っている。
- (4) 治療効果を高めるため、来談児童・生徒の担任教師に対しては、資料の提供を依頼するとともに、指導の徹底と協力をお願いしている。
- (5) 必要に応じて、児童・生徒の知能検査、性格検査を実施し、その結果を学校に知らせている。

- (6) 現場で生ずる教育相談分野の諸問題の理論的研究を行い、各学校からの質問に答えている。

2 教育相談の実施状況

(1) 相談者の人数（相談ケース数）

年度	幼児	小学校	中学生	高校生	一般	教員	計
昭和50年度	17	48	21	17	8	23	134
%	12.7	35.8	15.7	12.7	6.0	17.1	100.0

(2) 来談者の内容別件数（延べ人員）

内容別 年度	面接相談					通 信	電 話	計
	知能 学業	性格 行動	進路 適性	身体 神経	教育 一般			
昭和50年度	69	199	2	165	31	1	8	475

(3) 相談者地区別数（相談ケース数）

地区別	県北	県中	県南	会津	南会津	いわき	相双	計
来談者	110	17	2	0	0	1	4	134
%	82.1	12.7	1.5	0	0	0.7	3.0	100.0

3 教育相談の現状と課題

各学校では、登校拒否児をつくらないために、予防対策を積極的に進めていることは喜ばしい傾向である。

家庭にあっては、子供のしつけについて父母の考え方を一致させることが先ず基本である。過保護のしつけから自律性忍耐力を養うようなしつけをしていくことが必要である。

このようなしつけができれば、登校拒否児も少なくなり、望ましい性格の子供として育てていくと思われる。

昨今、幼児のことは遅れのことで来談する父母が多くなっている。これは、親と子の話し合いの少ないこと、親が子に話を聞かせる時間の少ないことなどが、主な理由と考えられる。幼児が一人でおとなしく遊んでいるからといって、放任することのないよう母親は特に考慮すべきであろう。

県下小・中・高の各学校において、教育相談に対する研究が高まり、校内で教育相談が、定期的に行われていることは望ましいことである。

特に、県下の高等学校では、教育相談研究会発足の気運があり、また、養護教諭の先生方が、身体的な治療ばかりでなく、心の治療にまで関心をむけられて、教育相談の研究を深められていることは心強い限りである。

相談ケースの中には、一般に重症になり過ぎてからの相談が多いようである。早期発見・早期治療が教育相談の本筋であることを考え、早目に来談されることを希望する。